（廿九日夕刊）

磐城新聞

休刊　大祭第一第三日曜
定價　壹枚二錢、壹ケ月五十錢、郵税十錢
廣告料（雜報欄行五十錢　場所指定三十錢増）
發行兼編輯印刷人　遠沼龍輔
發行所　福島縣平町田町拾六　磐城新聞社　電話五六四番

文字の縦書と横書

城山文

文字を縦書すべきか横書すべきかに就ては、從來各方面から論じられたやうである。醫學士から論じようとするものは、眼・視角度がどうであるかといふことまで調査し、何でも彼でも西洋流したがる心醉者はローマ字採用と共に當然横書きを主張して止まない。然るに之に對する縦書主張者の論點は多く傳統習慣といふことに重きを置いて居るのゝ如くに見ゆる。

○

文字を左上端から右方へ書いて行くことは、右から眞直に書き下して行くのよりは確に便利に相違ない。手も汚れずに濟み、又書いた文字を何物の邪魔もなく讀み下し得ることに反し右から眞直に書いて行くのには、或は手も汚れやすし一寸讀み下すにも書く手を止めなければならぬ等の不便がある。之は唯書くといふ方面から公平に見て下し得る利害得失である。が單に書く方面からのみ見て左横書の優り右縦書が劣れるも斷ずる譯には行かぬ重大な問題が横はつてゐる。そして其重大な問題といふのが案外卑近な平々凡々たる子供ダマシのやうなのだから意外に驚かせぬでもない。

○

世の中は兎角コケ脅しが流行つて一と通りの理由を述べるにも直ぐ學術的だ哲學的だといふことを口に筆にしたがるが、その學術的、哲學的だといふ内容が聽いて見て感心出來る程のものはさう澤山には無いところを見ると、學術的哲學的といふことも案外當てになつたものではない。眼前足下に横はる眞理を學術的、哲學的に求めんとすることは恰も春を訪ねて四百餘州を遍歴したやうな愚かゝる文字の縦書横書も聊かそれに類した趣きがないでもない。

○

文字を縦書にし或は横書にするのは、書くことを以て能事畢れりとするものではない。必ずや他の之を讀まんことを求むる意に外ならぬであらう。他の讀まんことを求むる以上他の諒解し易き書き方を選まねばならぬこと言ふでもない。そして其の書き方なるものは右から眞直に書き下すに優れるものはないのである。

○

暫く學術的哲學的の見地などゝいふことを外にして人間――三兒だらうの野蠻人だらうが將又文化人を以て任ずるものでも物の合點がまゐる時に頭を縦に振り不承知不得心の時に首を横に振ることは爭はれない事實である。此自然の事實に照らして頭を縦に振る運動となるところの縦書は物を諒解得心せしむる書き方であり、首を左右に振る運動を起さしむるところの横書は物の眞義を會得せしむるに不適當な書き方であることが結論として肯定されねばならぬ。泥棒にも三分の理屈があるといはるゝ程の理屈を如何に辯べやうとも上下左右頭の運動より起る自然の心理的作用を覆へし得ざる限り文字は縦書絶對優越性を認め蟹行を學ばんとする横書は斷然排斥せねばならない。ローマ字採用否論の如きも卑近な一擧を以て序に一蹴の下に解決されて了ふ。

○

文字の縦書横書による作用が此の如きところから横書はどこまでもそれからそれと敷衍し行くには都合よい點があることも丈けは爭はれない。西洋文字の内容が概してそれに適し横擴がりなして比較的淺薄なものとなるのは寔に當然の歸着であらねばならぬ。横に首を轉することは一瞥することであり物を諦視せんとせば是非共眼光を上より下、上より下へと動かねばならない。日本今日の思想淺薄にして落付かぬのもその主なる原因が西洋蟹行の文字を學んで眼球を左右にキヨロ〳〵させるところから起ると思ふ。一學は萬事を語る。國家百年の長計のため一切の横書文字を排斥するの急なるを感す。

※明日の吉凶※

新曆三月三十日
舊曆二月九日

▲一白　次第に順調のなれど金談縁談面白からず
▲二黒　何事も面白く順よく運び行く日常業尤も吉
▲三碧　内を謂へば外おのづから順に走るべし失物注意
▲四綠　過分の望みを起さず常業を勵めば進展あり
▲五黄　小資を以て巨利を得る日移轉勵士等も吉し
▲六白　横道に走りて失敗し易き日萬事手控が安全
▲七赤　機運可ならず進むも退くも不自由を感ずる日
▲八白　榮達する日氣心の緩まぬ樣一致して勵むべし
▲九紫　事業の根抵に動搖を來す日愼重に考慮せよ

講談

闇に聞く男達

(51)

高田涙川作　尾崎雪瞼畫

大八郎と浪次郎

銀兵衛は熱心に進めた

「大口屋さんはいつお立ちだな」

「明朝出立のつもりでございます、折角ご懇意になりしみ〴〵禮もいたさずこのまゝお別れいたすはなんとも殘り惜しく實は江戸へ止まりお禮代りに御案内いたさねばなりませんが早く宅にかへらなければならぬ用が出來ましたので、さぞ〳〵お忙しい所ですが、是非一緒においで下さいませんか」

「左樣か、それほど迄に仰せ下さるなら四五日大口屋さんへご厄介になろう」

それで大八郎は銀兵衛に伴はれ小田原へ來た

「オ、ナカ〳〵繁華な城下であるな」

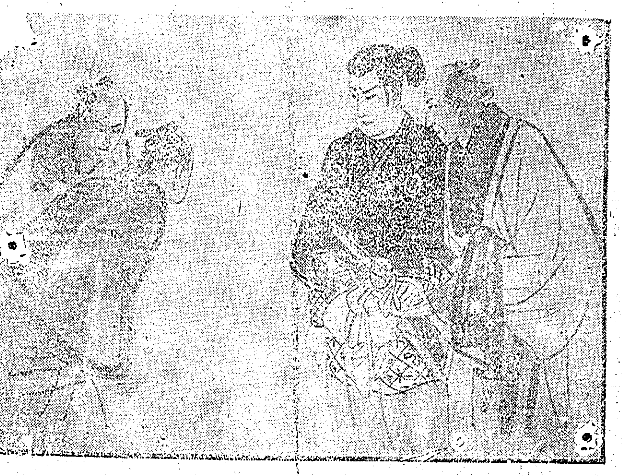
「江戸に近いせいかナカ〳〵繁華でございます、エ、あれが私の家でございます」

「オ、左樣か、ナカ〳〵立派な住居であるな」

銀兵衛宅のそばまで來た

「あの店の帳場に十九か二十位の男がゐるがあれはなんだお前の若い時を見る樣だな」

「あれは私の伜でございまして浪次郎と申します」



「オ、御子息か道理でよく似てゐると思つた、ナカ〳〵いゝ息子だ」

「イヤもう我まゝ育ちでこまります、どうぞおはいりなさいませ」

銀兵衛は笠と合羽をとつてズーツと店へはいつて來た

「ア、くたびれた、〳〵今歸つて來たよ」

「旦那樣お歸り」

「旦那樣お歸り、若旦那、大旦那樣がお歸りでございます」

奉行人がバラ〳〵それへ來り主人を迎へた

「ヘエおとうさん、お歸り遊ばせ遠方を御苦勞樣でございました」

息子の浪次郎は父にあいさつする

「ア、伜、今歸りました越後から荷物は皆屆いたか」

「エ、何んでございますか荷造りが二三日おくれるからよろしく頼むといふ手紙が參りました」

「ア、そうかよし〳〵今度は割に安い物を買つて來たよ」

「お父さん、あなの後においでなさる御武家樣はお連れでございますか」

「ア、浪次郎、後で話しをするが歸に米山四里の峠でとんだ災難に出會つた所をこの御武家に助けて頂いたのだからお前からもよく御禮を申上げてくれ」

「ハイ」

「品川の身寄りの方をお尋ねになつたが住居が知れず當分江戸に滯在すると仰しやるから是非手前方へお立寄り下さいと言つてお連れ申して來たのだ、どうせ九日十日は宿つて頂くつもりだ、どうも文武の道におすぐれになつてゐる偉い方だ、お前などもこういふ方のお話をうかゞうとどんなに爲めになるか知れないから後でゆつくりお相手するがよい」

「左樣でございますか、エー初めてお目にかゝります私が當家のせがれ浪次郎と申す不束者でございます。何かは詳しいことは存じませんが親御の災難をお救ひ下さいましたそうで何とも御禮の申し樣もございません。有難う存じます」

浪次郎は叮嚀に頭を下げた。

「イヤさう叮嚀にあいさつをいたされては返つて困この方が種々親御にお世話になつたのである、拙者は秋月大八郎と申す者初めてお目にかゝる以後よろしくお見知りおかれたい」

「御叮嚀のおあいさつ恐入ります」

斯く初對面の挨拶を交換し互に顔を見つた時に大八郎はイヤにこましやくれた若者だと思ひ又浪次郎の方でも父がいやな者をつれてきたなと思つた果して後に親をこいつに殺され又大八郎も末に浪次郎の爲めに首をとられる樣になつたのであるから此の時いやなやつだとお互に感じたのも無理はない俗にいふ虫が知らしたといふのであろう。

廣告

平町田町
高久病院
電話五一三番

二十九日（木曜日）ヨリ
特別大興行
昭和三年度、日活代表的超々大作映畫
原作…監督池田富保氏畢生の名畫
[illegible]
河部五郎……大河内傳次郎……兩俊大奮發

松竹蒲田本年度超大作、朝日新聞所載
原作加藤武雄　監督池田義信
珠を抱つ
栗島すみ子……清水一郎……主演

朝日新聞所載…前田曙山原作
幕末巷談　燃ゆる渦巻　第四回全七卷
日活秘寶映畫　故尾上松之助主演

全國協定　料金打破　本館謝恩　特別料金
入場料
二等　大四十錢　小二十錢
一等　大五十錢　小二十錢
特等　大六十錢　小三十錢

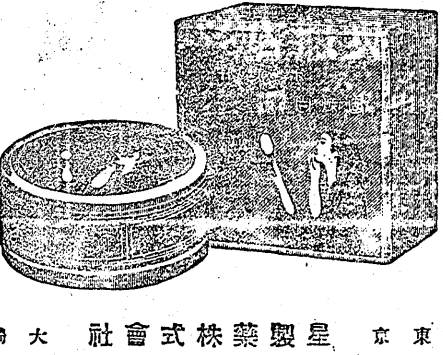
日活松竹
平館
電（四六六）

釀造元
銘酒　清世界
各炭鑛御用達
石城小名濱町
清水屋
小野晋平
電話六番

化粧くづれのない
固煉白粉

一　汗で化粧くづれにお困りの方は、是非ホシ美固練白粉をおつけ遊ばせ。
二　ホシ美固練白粉は、化粧くづれのない上にノリ、ノビがよく、化粧榮のする特徴を有つて[illegible]す。
三　このホシ美固練白粉こそ、皆樣の御滿足を購ふことの出來る品でございます。

ホシ美固煉白粉



東京　星製藥株式會社　大崎

營業品目
絹糸、絹紡績
綿糸、染糸、組紐
漁網糸、人造絹糸
カタン糸、輸出用加工糸
眞綿、其他糸物一式

東京市日本橋區通油町
株式會社　藤掛商店
糸界の羅針盤　糸紐通報御一報次第直送
電話浪花三三五一番　振替東京三三四〇番

小店員募集
十五才以上十七八才迄　五名
小學校卒業程度御希望の方磐城新聞社御出で下さい。委細面談

美味しい
パンの製造開始

□今回東京より製パンの優秀技術者を聘しまして製造を初めました。□

プンとくる香り、ねも云はれぬ舌ざわり確に御滿足を得ることゝ思ひます。何卒御試食の程を願ます。

バンズ
糸卷パン
ヒ井ツシユパン
レモンパン
ハートパン
クリームパン
一個　五錢

あんパン　一個　二錢

マツモトヤ
平町四丁目電話二一四

片濱自動車運轉
平、高久、豊間、江名

停留所
一丁目小川屋、四丁目泉屋
新川町松崎硝子店、月見町白土屋
月見町一二三屋、江名山口屋

電話…二一七番
　　…一四二番
（御三人以上はお迎ひに參上致します）

平町四丁目和泉屋旅館前
鈴木　片濱自動車商會

平町紺屋町
吉田眼科醫院

貸地廣告

平町郡役所より税務署附近の新開地に一千餘坪の貸地があります、然かも完全な土盛でありますから流失其の他の憂ひ絶對になく商店、諸工場並に高級の住宅地として最もの適地を極く安値にお貸しいたします
御希望の方は電話なり戴けば社員がお伺ひして親しく御相談に應じます

小名濱商事株式會社
平出張所
電話　六〇三番
　　　五四一番

平町に復たも
眞症の天然痘
二丁目裏の大工さん
當局極度に狼狽

平二丁目いづ屋裏大工職樋口八藏（五三）は數日來病氣の爲め臥床中であつたが天然痘の疑あるので平署から防疫官伊藤技師出張檢診の結果昨廿七日午後六時に至り眞症天然痘と決定し今二十九日早朝隔離したが漸次下火に入つたものと觀測やゝ平靜に復しつゝあつた天然痘の再炎に平署當局は勿論平町役場では極度に狼狽し八方消毒に努めてゐる

今度の新患八藏は
種痘をせぬ爲め
少しの暇を惜しがらず
一人殘らず種痘せよ

樋口八藏の天然痘傳染系統に就いては平署防疫班が目下調査中であるが八藏は過般平町當局が種痘を執行した時僅かの閑が惜しさに種痘をしなかつたもので遂に恐ろしい天然痘に傳染したもので右に就いて平署に出張中の縣衞生課山崎警部は「切角鎮りかけて來たのにまた患者が出た事は傳染系統は不明だが種痘をしなかつた爲めで實に遺憾です町民の中にはまだ種々の事情から種痘をしない人もあるでせうが此の際一人殘らず種痘して欲しい」云々と語つたが平町當局では八藏の種痘をしなかつた爲めであると言ふので徹底的に調査の上で全町民に對し一人殘らず強制種痘を執行する筈である

高等科二年に
八藏の二女
同級生を健診

天然痘新患者樋口八藏は直ちに隔離病舍に收容したが八藏の二女ミツ（一五）が平第二小學校高等二年生に進級した學童なので平署では學校當局と共力ミツの教室は勿論全校に亘つて一大消毒を爲す筈であるが幸ひ目下學期終り休學中であるため休校等の騷ぎはないが萬一を慮つた平署防疫班はミツの同級生七十餘名の健康診斷を執行する事となつた

未種痘者に
強制種痘
署長助役打合

平町に於ける種痘は廿七日を以て一ト先づ打切りとしたが一時終熄を豫想せしめた天然痘が復た首を擡げ別項の如く二丁目に眞症患者の發生を見たので佐藤平町助役は今二十九日猪狩平署長と打合せ未種痘者に對し強制的に種痘を實施する事となつた

卒業式に臨みて
於水野技藝女學校
小名濱　小野生

本校創立以來既に五ケ年の歳月を送つて年齡から申上ますと、高齡とに申されませんが滯りなく今日迄發達して來た事は、何と言ふても祝詞を申上ねばなりません、殊に本年度各科卒業生皆樣には前例になき優等の御成績で、卒業なさるその事を校長さんより聞きましたが、恰も自分の事の樣に嬉しく感じまして御よろこびの詞を申上たいと考へる次第であります。

實は卒業式毎に、御招きを受けて何か話をとせがまれるので、式に臨むのも遠慮申上たい樣な氣持になるのですが、本校が創立された、當時の窮狀を能く知つて居る自分だけには、自己の氣儘を云ふて欠席をする勇氣は持つてないのであります、畢竟顏を出すと云ふ事は陰、陽に本校の將來に對して、出來るだけ有意義に御後援申上たいと云ふ老婆心より出て居る事であると云ふたけを御承知置きを願度と思ふのであります。

最近婦人問題は喧く研究を進めて來て居る事は、皆さんの先刻御承知の處でありませう、昔の男尊女卑の虐げられた時代から少くも、男尊女卑の檻より脫して男女同權とまで行かなくても、女子の立場を自他共に容認せねばならぬ境地を作つたのは、誰かその原動力となつたものであるかと云ふ樣な事を知つて置く必要あると思ふのでありますが之れは先づ最も手近な處より見たならば皆さんの母校である水野女學校の校長さんなどが、その自覺した婦人教養、大精神がその因をなつて居る事を忘れてならないのであります、然るに水野先生などより、亦々古い先輩、多々あるのでありますが共內尤も吾々の首肯し得べき大先輩に福澤諭吉先生を忘れてはならないと思ふのであります。

福澤先生は既に故人となられたのでありますが、男尊女卑の尤も隔りの多い時代に如何に婦人教養に力を注いだかと云ふ事を研究すると却て熱心で全く一頭地を拔いて居る見識を發見するのであります。

それは當時女子の遵守すべき婦人道德の金科玉條として修養せしめたものに、「女大學」とか「今川庭訓」とか、「女論語」とか「女四書」とか云ふ實に婦人道德は必らず此等の敎訓によらねばならぬとの目標であつたのであります。然るに先生は此等に對して甚だ女性を陰屈に導く仕打ちであると道破しました。（續く）

石城郡下の
麥作は良好
農試場の調査

農事試驗場の發表によれば麥作の概況は麥類豐凶考照試驗區は十月二十日播種より播種以來の氣象狀態概して適順にして發芽生育共に順調で冬期間の氣溫は平年に比し約一度內外の高溫を以て經過し日照降水量共に適度なるを得た經過斯の如くで大小麥を通じ草丈け莖數共に著しく增加を示し平年並に前年に比し良好であると同時に一般農家における作況も同場に比して大差なき成績であると

湯本驛の貨物
案外に活況
一般荷の出入

海岸線湯本驛の貨物取扱數は附近炭礦の業績不振に祟られ意外の不成績を見てゐるものゝ如く一般に觀測されてゐるがその實際は全然反比例で石炭發送こそ既報の如く思はしくないが一般貨物を通ずると頗る良好である尤も石炭發送もその輸送力を減退せる理由から昨年の如き變災と勞働爭議による一時的現象の結果であつたためこれが復舊後の採炭能力には大なる影響もない譯で不振なる事業界の大勢を挽回する事能はざるも同地方炭礦としては消極的ながらも景氣の回復を期待し或種の制限內において從來の方針に基き營業を進めてゐる模樣であると

結局馬鹿を見たのは
準備勉強をした者
磐中、磐女兩校とも
考査試驗本日終了

平町縣立磐城中學校、高等女學校の入學試驗は去る二十七、八の兩日考査試驗を行ひ今二十九日体格檢査を以て玆に全く終了したが各學校當局者はいひ合せたやうに案ずるより生むが安いといつてゐる

受驗生もまた一樣に案じたより安かつたとしてゐるなら口答及び筆答試問課題數は學校によつて外少異なるが大体十から二十位であつたしかして課題の內容にはまだ記憶主義の型を拔け切らないのが多少あつたが大部分は記憶による常識にはなく想像、觀察、推理による頭の働きをねらひ

課題の如きもどつちかといへばむしろ安過ぎるやうなのが多かつたが右につき學校當局は語る「學校が考査に使つた課材がいひ合せたやうに推理と觀察による頭の働きをねらつた結果全く試驗勉強の必要を感じなくなり同時に書物の中から一歩を踏み出して生きた學問に全力をそゝぐやうになり父兄もまた子供の推理力、觀察力に注意するやうになるかも知れない從つてさうなれば今回の制度改正は完全に目的が達せられるわけである」云々と語つたが兩校とも四月一日に發表の筈である

優良納稅組合
受賞者氏名
平町役場表彰

平町役場では來る四月一日午後一時より元郡役所會議室に於て優良納稅組合並に管理者の表彰をなす筈であるが受賞者氏名左の如し

△管理者の部（立町）荒川淺次郎（田町）石坂詮太郎（二丁目）三井常松（紺屋町）水野金七（才槌小路）小野鶴松（南町）近藤ムメ（町役場）大河原金之助

△組合の部、戊辰組　七丁目組、平檢車所、二丁目戊辰組、月見町組、水道課組、材木町東部組、二丁目寶成組、長坂組、有隣組、平第二職員組、平商業學校組、杉胡組、鎌田町東一組零產組、鎌田東部組、二丁目南裏組、南町六區、紺屋町組、鎌田町六番、平信用、磐城炭礦職員組、胡摩澤第三郵便局組、〇イ組、丹野組、仲田町、壹丁目川岸新川町、仲間町、研町、第二區一ノ組、三丁目二三組、三丁目一四組、古三組、胡摩澤、三田組磐高女校、才槌小路丙組久保町、立町第二、立町第一、鎌田大正組、南町第一、二丁目第三、二丁目第二、鎌田第三、南町第三、稅務署職員、四丁目下組、才槌小路、才槌小路甲組、材木町中央組三丁目南組、三丁目大谷長尾組、四丁目西部組、大工町東部、大工町第二五丁目上組、南町第二、紺屋町第三、五丁目下組新川町上組、甲寅、田町四丁目、平機關庫、新川町大正、新田町中組、一丁目第三、一丁目第二、役場詰員、三丁目第三、古鍛治組、二丁目四番組平刑務所、研古、紺屋町第六、紺屋町第一、南町第四、南町、鎌田、裁判所員組、新川町松崎組、小學校職員組、紺屋町五二組、北目組、長橋町、五丁目中組、三丁目中央組、紺屋町第四、磐城中學校

控除の特典もある
申告を怠るな
戶數割賦課に忙しい
各町村役場當局

石城郡下各町村當局では特別戶數割の賦課に關し目下調査中であるが同稅に一戶を構ふる者又は一戶を構へざる獨立の生計を營むものに**賦課する**の規定で四月一日の現在により納稅義務あるものは同月末日までに所轄町村長に所定の申告をなすべき規定であるが期間內に申告を怠りたる結果折角地方稅に關する法律で認めた六十歲以上十四歲未滿の老幼或は不具廢疾者に對する控除の適用を取り逃がし一は以て役場にだけ事務取扱ひ上の煩鎖を來し一面納稅者自身の不利益を招く向が極めて多いので平町役場では深くこの點に鑑みこの程申告書記載上の注意及關係法規を抄錄したる申告書用紙を一般納稅義務者に配付し、因に**老幼不具**廢疾者に對する控除額は所得千圓以下なる時は一人に付五十圓、三千圓以下なる時は同上三十圓、三千圓以下なる時は同上十五圓の割で即ち控除の特典は富めるものに薄く貧しきものに厚くして他の稅金と些かその趣を異にして所謂社會政策が多分加味されてゐるものである

弓田防疫官も逐に
天然痘の疑ひ
廿六日來發熱甚しく
或は犧牲の感染

去る十三日突如平窪村に天然痘が發生して以來平署防疫班にあつて患者の診斷、消毒等常に第一線に立ち獻身的努力を續けて來た平細菌檢査所長弓田防疫官は俄然二十六日夕刻から發熱し其の後引續いて病臥中であつたが今廿九日午前十時伊藤防疫官檢診の結果天然痘らしき症狀ある事を發見し平署の狼狽は其の極に達し縣當局に急據報告すると共に衞生課員の特派を求めたが今廿九日午後六時伊藤防疫官再診斷の結果眞疑各れとも決定する筈で若し同防疫官の檢診の結果眞症天然痘と決定の曉は由々しい大事となるので今夕の檢診は頗る注目されてゐる

平町の水害豫防に
新川改修工事
縣補助金を得べく
當局出縣陳情

平町の南端を貫流する新川は例年の降雨節に際し何日も洪水となり流水が氾濫して附近の街道や耕地を害するので平町では先般來隣接町村たる飯野、內鄕の各村と協議を遂げて水害豫防組合を設立して新川を改修し水害を豫防するの計畫を樹立した、更にこれに對して補助金の交付を受けたいと二十八日午前伏見平町々長は出縣し土木當局に對して補助金交付の陳情をなす所あつた。改修すべき地點は內鄕村の大字御臺境から同村綴に至るまでの延長二百八十六間餘である

角力の遊戲中
河原に轉落
少年胸を打つ

赤井小學校尋常科二年生同村字日渡會川軍之三男繁男（八）は廿七日正午頃附近の夏井川岸の砂原で友達五六名と角力に戲れてゐたが誤つて轉倒した際折惡しく岩に胸部を打ち付け氣絕したので大騷となり直ちに平町高久病院に擔ぎ込み應急手當を加へてゐるが全治一ヶ月を要する見込であると

公園の花見燈に
邪魔者が出る
驚ろいた東部電が
當然自衞の對策

平町松ヶ岡公園の櫻花時をして一層殷賑ならしめ、さらにまた人氣の消沈してゐる此の不景氣挽回策の一助たらしむべく東部電力平營業所が一ト奮發して公園全山と新川畔に例の常夜燈を設らい外來の人寄せをしようと計劃し

武田所長が過般町當局と折衝準備中の旨本紙既報の如くにして爾來東部電平營業所は武田所長指揮の下に廣告燈の募集を開始するや然かも平町の繁榮策たる此の擧に讃意を表し義務的にもと一燈二燈と少數乍らの申込みをする商店もあり極めて順調に進行してゐる矢先き何人の計劃になるか東部電の扱ひ以外の方法を以て廣告をすると云ふ名義の許に

廣告燈を募集するものゝ現れ折角同營業所の半ば奉仕的事業も進行を阻止される破目に陷つたので東部電平營業所では此の事業進行の爲め別に何人かが計劃してゐる他の廣告燈に對しては送電せぬ方針を定め鋭意廣告燈の募集に努力してゐる

長瀨氏除隊

平町古鍛治町長瀨耕平氏は一年志願兵で若松第廿九聯隊に勤務中の處除隊來る四月一日午後四時半平着にて歸鄕すると

磐新塔
※※※※※

平町役場庶務主任の花澤文庫さんと聞いた名前は巖谷小波先生の童話の主人公の樣な優しさを連想させるが實は日清日露の兩役に實彈の下を潜つた勇者で眞ツ黑ケの鬚ムシヤなオジさん、實戰談なぞをさせるとクロポトキンも三舍を避けねばならぬほどの剛膽猛勇な風格、その花澤將軍例の天然痘流行以來世のあじけなさを深く感じての事か何處から手に入れたものか「人間一生運命開拓の秘法」と云ふ書物を手離さず諸行無常の感に打たれ長嘆之を久ふしてゐる

平町南町
大和田醫院
電話一七〇番

鼻のクスリ　チクノール錠
痔の最高內服藥　ダイサン錠
平町五丁目角
山野邊藥局

祝植田支局開設

植田町
質屋
貸家業
渡邊德之助
電話一〇九番

植田町
技術本位
東條寫眞館

女子裁縫所開設
私事

嚢きに本郡上遠野裁縫女學校長として就任中は何かと御配慮に預り有難く御禮申上ます、就きましては今回左記に於いて女子手藝として最も各家庭に必要な裁縫の教習を最も熱心、懸命に傳習を致したく存じ四月一日から傳習所を開始する事となりましたから御利用下さる樣願上げます。

平町柳町二番地
若松裁縫教習所
若松あさ子

內科、外科、婦人科。
小兒科、花柳病科
磐城病院
平町田町本通り
入院隨時
（電話一一四番）

內科
小兒科
皮膚科
花柳科
平町舊城跡（城山）
青沼醫院
醫學士　青沼淡夫
電話四〇三番

夜間診療
胃腸
內科
十二指腸虫病
專門
內科部

梅毒
淋病
婦人病
皮膚病
專門
外科部

平南町 [illegible]
電話一〇七